

令和元年度

# 社会教育・公民館等職員研修会Ⅲ

日時：令和元年10月29日（火）

午前10時 ～ 午後4時

場所：宮城県県庁 講堂

## 受講者振り返りシート集



---

宮城県教育委員会・宮城県公民館連絡協議会

## 宮城県社会教育・公民館等職員研修会Ⅳ 振り返りシート（令和元年10月29日）

### 1 午前の講話から印象に残ったこと、学び得たことは何ですか。

一般的な感覚としての「平和」の中で、「平和構築学習」を実施することの難しさ。平和でない時代の経験があれば、その実施は容易なのではないかと感じました。その意味で「平和ぼけ」、前世代が構築した「平和」を享受していることへの無自覚が大きな問題だと感じました。しかし、そこに固執するのではなく、佐藤一子氏が講話で話された「平和・持続可能な地域づくり」として、SDGsを通して意識させ、「行事」「アート」「国際交流」等の手段で、「平和構築学習」を行っていくことが可能だと感じました。

これまで、平和学習＝戦争のイメージがありましたが、佐藤先生のお話、グループ討議でそうではないのではないかと考えました。いじめやパワハラといったものに対する学習も平和学習なんだと思います。また、大人の学習権という話もありました。平和学習の場合、学ぶ権利を持っているという以上に学ぶ責務があるのではないかと思いました。佐藤先生の話はいろいろな学びのきっかけをいただけたと思います。それを自分の中でしっかりとした学びに昇華していきたいと思います。

公民館の原点を確認し、「権利」としての社会教育の重要性を実感しました。身近に公民館という社会教育施設がありながら充分活用ができていない。与えられるのではなく、住民の主体性の力量が問われていると感じました。

デリケートな問題でしたが、改めて「語り継ぐ」ことの大切さを知りました。先ずはもう少し勉強して出来る事から少しずつ実践していければいいなと思いました。

平和をテーマに学習することで、何が大切か、何のために何をするのかを考えることができた。

語り継ぐことの大切さ、語り合う場のあり方について、深く考えさせられました。SNS全盛の時代だからこそ、情報共有のあり方についてもうまく活用し、集い繋がり、広げられる公民館にできるよう、職員間でも学び合いたいと思いました。

平和教育の中心としての公民館の意味、大切さを学べることが出来た。

住民主体の学びを実現する公民館の存在により、社会教育、平和学習の具現化につながることを学んだ。行政として、どう仕掛けるかを考えたい。

広島ははじめから平和学習が盛んだと思っていましたが、とてもデリケートな問題で話し始めるまでに時間が掛かることが分かりました。

社会教育が平和・人権学習とどのように繋がっているか、学ぶ事が出来た。学びの自由を保障するための社会教育の役割は大きいと思った。

## 1 午前の講話から印象に残ったこと、学び得たことは何ですか。

本町では、平和教育の講座を設定しておりません。唯一実施しているとする、中学校へ派遣している事業の一環として、船で特攻基地を視察することぐらいです。私自身、平和教育に対する事業は希薄となっていることは明らかです。内容を気軽に扱うことが出来なかったからなのです。しかし提供者の工夫によって学びを深められると確認できた。

平和学習は苦悩を語るだけではなく、俳句や絵画、何でもいいから表せることがわかった。

平和教育を声高にすることは、何処なのか、偏った思想の持ち主ではないかと思われがちの世の中のような気がしていた。しかし、佐藤一子氏のお話を聞いて「広島での平和教育の実践」がなぜ、日本全国で広めてこれなかったのかと改めて憤りを感じる。社会教育と学校教育のタイアップで、この一触即発の時代を確実に乗り越えなければならないと思った。

平和の構築学習と公民館ということに、初めピンとこなかったが、講話から自分が考えているのは狭い内容で、生活体験を語り継いでいくことが、平和学習に繋がることを学んだ。(負の遺産も含めて)

平和学習において、公民館と日本国憲法の関わりの強さを学んだ。日本国憲法内に公民館について記されている事自体が知らなかったので、勉強になった。

戦後すぐの公民館で憲法学習をしていたことには驚いたということと、新しい国をつくるという国民の熱気を強く感じました。

自分が勤務する前では平和教育に関する講座やサークルは行われていない。住民の平和教育へのニーズや町の戦時の歴史を調べたことはなかったが、調べてみたいと思った。また、学校教育において、義務として平和教育を取り入れる必要があると感じた。

社会教育と平和構築学習の関わりについて改めて考える貴重な機会となった。

公民館がなぜ設置されたのかということを確認できた。特に戦後の広島で公民館を設置したということは、国民が学ぶ機会、情報を得る機会、考えを共有し合う機会の場を求めたということである。平和教育を公民館で行っていくには、デリケートな課題なので難しいとも感じるが、平和教育の経緯を基にして、公民館の在るべき姿を学ぶ事ができた。

公民館の誕生目的を初めて知ったことと役割について改めて認識したこと。今後の講座企画、地域づくりへの指針と今回の基本理念の学習からいただきました。タイムリーでした！

知っておかなければならない知識・法について学ぶことができました。グループワークでは住民に関心を持ってもらうための工夫や法の解釈の難しさについて話し合うことができ、大変参考になりました。

## 1 午前の講話から印象に残ったこと、学び得たことは何ですか。

語り継ぐことの大切さを学びました。身近にあるものを大切にしながら、話を聞いたり話したりしていききたいものです。公民館になかなか来れない人達の話聞くアウトリーチ的な視点も大切にしていきたいです。

戦争や負の遺産を恐怖や嫌なイメージを持っていて、私自身または若い世代の人は目をつぶったり、蓋をしてしまったたりして避けて来たと思う。今ある平和は、その様な過去の体験があつてこそこの平和である。先人の苦勞を語り継ぎ、平和を学ばなければ未来の平和は維持することが出来ない。今後何らかの形で、その様な学習の事業をしてみたいと思った。

負の体験は語っても大丈夫なのか？相手の心の中が分からないので講座にすることが難しいですが、語り継ぐ事の大切さも分かるので事業にできればと思いました。

九条俳句訴訟についての話題は何度か聞いており、今回は実際に関わっている佐藤先生よりお話しが聞いて良かった。平和学習については、広島の基本計画に平和について、共通のビジョンを示していることが印象に残っている。

平和教育に対する見方が変わりました。より広く捉えることが出来るようになりました。地域で戦争を経験された方がいると思いますが、なかなかお話を聞ける機会はないかと思えます。そのような方のお話を風化させずに語り継ぐことも大切なのだと思いました。

住民自治を学び、実践する場である公民館において、平和学習を行うことの大切さを学びました。

- ・戦時の知恵、良いことだけでなく、悪かったことも語り継ぐ（「負の遺産」）
- ・住民との対話のなかでの公民館運営

今まで何故このような研修会がなかったのか。公民館も原点にかえろう。平和について、憲法について、みんなで話し合える場にしなければ未来はない。実践されている講師の方のお話はとても濃くて、わかりやすく、またお願いしたい。

社会教育施設として、平和構築学習に積極的に係わり、実践していく必要があると思いました。公民館の原点に立ち戻って考えることができました。

学校教育＝島・社会教育＝海とした場合、海が豊かでなければ島での生活は成り立たないというお話です。児童館併設の館にいますが、子ども達の生活環境や心の状態は親や地域の影響を大きく受けていると感じます。家族の生活を支える働き手世代が自ら学び、交流できる場所を作り、学習の権利を守らなければと思いました。

九条俳句訴訟判決から、学習の自由、大人の学習権、公民館としての公平・中立とは何かについて学ぶことが出来た。平和構築学習は政治と切り離して考えることは出来ないので、お互いの人格を尊重し合って自由に談論する場という精神に立ち還って考えなければならないと思う。

## 2 午後の講話から印象に残ったこと、学び得たことは何ですか。

○安孫子氏による「満蒙開拓と宮城県」では、結果として大きな悲劇を生んだ史実について、宮城をはじめとする東北、そして長野で行われた教育、さらに、人脈を最大限に活用した政策があったとする考察を学びました。平和と戦争、さらに教育と制度の縮図と言えるこの事件の重さを感じると共に、現代の人類の生存に関わる環境問題等においても、現代の教育と制度に通ずる普遍的な問題だと感じた。

○松館氏による「マスメディアが報道すること、しないこと」では、ジャーナリズムの原点を見失うメディアがあることに失望と恐怖を感じました。常に権力者が権力を維持するために制度を再構築する類いのことは理解してきたつもりですが、本来の監視役がミイラとなって制度に組み込まれていくことを知り、権力者の計り知れない権力維持・構築学習欲の高さに驚嘆した次第です。このメディア戦争の中で、いかにメディアを監視し、正しい道を歩ませることが難問であることを踏まえて、改めて私自身のメディアリテラシーを高めていくことの必要性を痛感しました。

満蒙開拓団について、これまで大規模な移民政策なのになぜ宮城ではあまり知られていなかったのか疑問に思いました。今後、歴史学習の一環でもいいと思うので学びの材料にしていければと思います。松館先生のお話は、社会教育に携わる者という以上に一人の人間として情報をうのみにして生活していることへの警鐘だったのではないかと思います。そういった意味で、よく石井山先生がおっしゃっている現場に足を運ぶということは、正しい情報を得る一つの手段であると感じました。

メディアに関心があったので、どのように真実を読み解いていくことの大切さを知り良かった。

情報をうのみにしない、偏見を持たない、平和に関する事業には  
①行事化 ②アート化 ③国際交流

お二人の話をもっとじっくり聞きたかったです。メディア・リテラシーは子どもも大人も身につけるべき力です。何が大切なことなのかは、自分の力でつかみに行く、確かめるという主体性が必須だと思いました。

メディアが人々、戦争に影響を与えている。→公民館、教育活動でも情報の使い方を考え直す必要がある。

メディアの有効性と怖さを学んだ。情報リテラシーを身に付けながらの学び、または情報をコーディネートしながらの学びを展開できる公民館運営を目指したい。

まず満州へ宮城県から多くの人が行っていることに驚きました。メディアに関しては、何が正しい情報なのかを考え、判断する力を身に付けることは非常に重要だと思いました。

- ・満州事変時、安孫子先生が3才で記憶のはじめであること。満州の人民を送り出すために南郷分村方式が利用されたこと。
- ・ニュースは座標軸のようなもの。メディアを監視する。そういう視点を持って、ニュースや新聞をみななければならない。

## 2 午後の講話から印象に残ったこと、学び得たことは何ですか。

「戦時中に日本人が満州に移住して、終戦後、孤児として残った人がいる。」くらいの知識しかなかったので、その経緯や東北の人々が大きく関わっていたということを初めて知った。メディアとのつきあい方を再考させられる内容だった。気をつけないといけないとは思っていたものの、メディアの現況ということ把握できたのは良かった。

歴史的背景を知った時、驚きと課題が見えてきたように感じる。物事を他方面から見えてきたとき、社会教育のよりよい発展や学びを深めることができると感じられます。

情報は「変化」するものだということがハッとさせられた。

安孫子氏も松舘氏も非常に深いテーマで話してくださいました。聴衆が少ないことがもったいない気がする。私自身いつも疑問に思っていたことが、雲が晴れていくように明らかになった。是非、多くの人と共に、この点について語り広めていけたら良いなあと思った。再び拝聴したいです。報道番組は視聴率を上げるための構成になっていないだろうか、最近は一。

- ・満州開拓についての資料は少ないと思うが、宮城県で関わった人数が全国3位というのに驚いた。(数字で示していただいたことに感謝)
- ・メディアについても、報道されることが真実とは限らないということから、自分で真実をみつけるための努力、メディア・リテラシーを身につけることが、とても大切だと思った。

満蒙開拓などの戦時中の出来事にも宮城県が関わっているということを知り、驚いた。

満州と宮城県がこんなにも深く関係していたことを初めて知りました。とても興味深い話で、勉強になりました。

満蒙開拓と宮城県についての関係をもっと詳しく知りたかった。分村計画に至った理由、送出している、していない自治体の違いなど、数え切れない先人の犠牲の上に今日の日本があるので、やはり平和教育は必要。

元ジャーナリストの方から報道についてのお話を聞く機会はなかなかないので、勉強になった。

満蒙開拓の発端から終結(?)までをザッとではありましたが、知ることができました。

満蒙開拓やマスメディアの話について、正直難しい内容で、学びを得たというより、現状や過去の歴史的背景を教えてもらった感じがしております。その後、ワークショップでグループの方々の話を聞いた時、メディアを今後どう生かすか、多くの情報を利用して仕事をする中で、どんなことに気をつけるのか等、私と違った視点で考えていたので、自分が先入観を持ち過ぎて話を聞いているなど思いました。

## 2 午後の講話から印象に残ったこと、学び得たことは何ですか。

歴史を知って愕然としました。宮城県がこんなに深く関わっていたなんて……。深く大事な問題を学び直した機会でした。NHKのみならず、マスメディアに対して「ヘンだな」と感じていたことは、正しかったのだと確認できました。

満蒙開拓について、初めて知りました。メディアの書くことは真実とは限らないので、メディアリテラシーを身に付け、しっかりと真実をつかめるようにしていきたいです。

正しいことを見抜く目が必要だと思いました。南郷に開拓者が多い理由がわかりましたが、戻ってきた人達のその後が知りたいと思いました。SNSの扱いは気をつけなければいけないということもみんなに気付いてもらいたいと思います。

国の政策ではなく高等国民学校の松川先生のもと住民たちで移民も残った村民も良くなるために考えられた郡村方式はまさに住民主体の地域づくりだと感じました。その政策が国をも動かしたのは私たちにも大きいことではないか、何か課題解決のためにやってみようと思った。情報は空気のような存在であり、生きるために必要なものだが、情報を鵜呑みにせず、与えられた情報の中から必要な情報を引き出し、活用する能力を身に付ける必要がある。

再度読み直し、学びます。

メディアの情報が必ずしも真実ではないこと。その情報に関して色々な人の意見を聞き、学ぶ必要があると思った。

初めて知る史実もあり、とても勉強になりました。先人から学ぶ、歴史を学ぶ、といった時、様々なメディアで個人的に学ぶことはできるのでしょうけれども、その情報の真偽を見極める力がないと、学びの意味がなくなってしまうと感じました。直接体験した方々から直接話を聞く（語り継ぐ）ことの大切さやそのための人と人とのつながりを大切にしたいと思いました。

- ・満蒙開拓の歴史について。学生時代に漠然と勉強しただけだったが、そうした悲しい過去があったとは知らなかった。
- ・メディアはすべて正しいわけではない。

真実とは何なのか。メディア・リテラシーの教育の大切さ、SNSのニュースの危うさを知ること、知らしめること。疑うことからすべては始まるのか。

メディアの業界に長年、集まりながら、厳しい目でメディアをよくよく監視すべきであり、情報を見極めることが必要であること。とても言いにくいと思われませんが、ご提言いただいた事に感謝します。

公の施設に係わる者として、情報提供や学びの機会を提供するに際し、厳しくチェックした上で、学びの自由を守っていかなければならないと思いました。

## 2 午後の講話から印象に残ったこと、学び得たことは何ですか。

日本がどのように中国侵略を進めていったのか、また、それはどのような思惑があったのかを学ぶことができました。政府の発表・方針が必ずしも正しくはないこと、住民自身がマスメディアを含め、監視し、その真偽を考えられる学習機会を作りたいと思いました。

満蒙開拓団の現実についてお話を聞くことが出来たのは得がたい体験だった。自分の母も台湾から引揚者なので、当時の苦勞を聞くことがあったが、50代の人なら身内からそういった話を聞いている人は多いと思う。戦争を知らない我々世代も引き継げるものはあるかもしれない。先人の苦勞を無にしないためにも、多くの人々に平和構築について学習してもらえる企画が必要だと感じた。

## 3 午後の講話から印象に残ったこと、学び得たことは何ですか。

現在、社会教育主事として、社会教育・生涯学習の推進等を責務として取り組んでいる中で、今回の学びは私個人としての学びの機会となりました。今後、身近なところで今回の内容等が話題となった時に、活かせる知識をいただきました。

自分が思う以上に平和学習へのハードルの高さを感じている人がいるということに少々驚きました。しかし、グループ討議の中ではみなさんそれを乗り越えてどのように事業に活かしていくかということを考えていて社会教育に携わる人の前向きな思考に刺激を受けました。3人の先生のお話は非常に深みがありまだ自分で消化できていない部分が多々あります。しかし、前向きな思考で今後役に立てていきたいと思えます。

- ・「公平中立」にとられすぎて、住民にとって必要な学びの場をつくることに公民館が消極的あってはならないことが明示されました。
- ・改憲が議論されている今こそ、憲法講座を提案していこうと思いました。

様々な体験をされた方の、語り継ぐ場の提供が、できればいいのかなと思います。

改めて課題があつてこそその教育事業と思い出しました。今後も原点を忘れずにいたいです。

「事業をすることが目的化してはいけない」という基本姿勢を職員で共有したいと思いました。住民の自治の力を育むことを目指して場づくり、人づくりに働きかけたいと思いました。

社会教育の可能性は無限だが、それだけ、主事、教育委員会、公民館の責任は大きい。

震災遺構、歴史民俗資料館等、東日本大震災関連の話題を基に、平和学習、社会教育を展開できるのではと感じた。まだまだ勉強不足のため、私自身が学びを深めたい。

メディア・リテラシーに関しては、若いうちからの学習機会が必要だと感じました。



### 3 午後の講話から印象に残ったこと、学び得たことは何ですか。

「平和構築学習」・・・地区館で担える役割はあるのでしょうか・・・  
個人として戦争の歴史やメディアに対する姿勢等認識は大切と改めて学びました。(知を蓄える)  
(現在30才を超えた息子から、テレビや新聞をうのみにするなとよく言われていました。)

普段「平和」について考えることはないが、それについて考える必要があるなと思った。メディアを比較して真実を見極められるようにしたい。

平和構築学習の取り扱い提供者の工夫によって幅広い内容を提供出来ることがわかった。あらためて新しく事業は展開できないが、今の実施している事業に組み込む工夫をしたいと思う。

平和教育については、社会教育(公民館・国・博物館等)連携をして、次代を担う子どもたちも含めて、もっと明確に進めてゆくべきと思う。特に学校現場での取組もカリキュラムに入れ込んですべきである。機会があるときに、働きかけたい。

社会教育施設としてどうかかわるかという所では、みんなで集まって学ぶというのが公民館の強みだと思うので、そこを活かして平和(広い範囲での)を目指して講座等に活かす。

平和構築学習を今後の事業に取り入れても良いではないかと思った。平和構築学習の必要性を学んだ。

平和教育については、社会教育と学校教育が連携して行っていかなければならないと思う。自分の立場だけでなく、課として何が出来るか、していくべきかを考えるきっかけとなった。

現在担当している「地域学校協働活動」に活かせるところを活かしたい。

情報について、かなり調整されていることは察していましたが、はっきりメディア関係者の方から伺うことで、未来への危機感を自覚しました。これを生涯学習の場で披露できないか考えてみたいと思います。

ワークショップの最後に佐藤先生が「住民がテーマに対してどれくらい関心があるのか」というお話をしておりました。社会教育推進に向け、自分が担当している事業は、一部の住民が知っていて残りは知らないという可能性があるなあと思うことがあります。平和教育は「何十年もの模索があった」と佐藤先生はおっしゃっていたので、結果をすぐ求めず、地域との関わりの中で少しずつ社会教育を進めていこうと思いました。「焦ってはいけない」とも感じました。

次年度の講座企画に平和教育(大きな意味)を取り入れていきたいと思います。来月の沖縄講座に活かします。いろいろなヒントを頂きました。知らないことが多すぎます。わざと知らされていない状況に放りこまれていたのでは?気をつけていきたい。

### 3 午後の講話から印象に残ったこと、学び得たことは何ですか。

SNS の利用について、拡散する前に情報を比較すること。(真実を掴んでから！！)

公民館関係職員として正しい知識を持ち、地域住民に学習の場を提供するためにも職員として学び続けたいと思います。

新しい事をするためには、古いことの学びも必要「温故知新」  
住民が主体の地域づくり(課題解決)、私たちはサポートにまわる、住民をまきこんだ事業を試してみたいと思います。「今日の内容は少し難しかったが、色々な気づきがあり、参加してとても良かったです。」

平和学習だけでなく、事業を展開していく上で、まずは共通意識・目標を持つことが必要であること。

人と人とをつなぐこと、コミュニティを構築することについて「何のために」という大きな目標を明確にもって取り組めると思いました。平和な社会を構築するため、持続可能な社会を構築するために自分関わっている地域のために活かしたいと思いました。

公民館事業を計画するにあたっての様々な視点、切り口を見出せたと思います。

時は過ぎ去り、体験者がいなくなったら、また戦争をしようなどという意見が出るだろう。体験した人には語り伝えてほしいし、次世代の未体験者は聞く耳を持つ余裕がほしい。平和を身近なもので考えられるような講座をできるよう、館に帰ったらスタッフで話したい。地域に帰ったら積極的な講座に参加したい。

- 1) 公民館で憲法講座を行う
- 2) 「公民館そのもの」の役割や設置の理由を学ぶ講座を行う
- 3) 平和学習は(a)アート化 (b)行事化 (c)国際交流事業を結びつけて平和の冠をつけて行う。

今後も自分の中で「真理」を求める姿勢を大切に仕事に係わりたいと思います。

歴史学習の重要性を改めて感じました。戦争は今生きている多くの人には体験したことのないものですが、先人の体験から他者の思いや痛みにも目を向けること。では、他国から見たらどうなるのか?等、多角的な視点を持つことに繋がると思っています。

平和構築学習は大切、公民館職員として学習を促す責務がある。SDGS のビジョンを意識し、学習者が楽しく学べる企画(仕掛け)が大切だという基本姿勢。